

令和5年度高総体コロナウイルス対応等について

岩手県高体連ラグビー専門部

1. 基本的な考え方

部活動（大会参加）は、十分な感染症対策を行った上で、生徒の健康・安全の確保のために内容や方法を工夫しながら実施する。

- （ア）部活動（大会参加）は、生徒本人と保護者の意向を尊重して、参加を強制しないこと。
- （イ）教員は、参加する生徒の健康状態を把握し、生徒の体調管理を徹底させること。
- （ウ）引率教員・外部コーチはチーム状況や大会留意事項を理解しておくこと。

2. コロナウイルス対応（選手・指導者）について

- （ア）事前に健康チェックシート（チーム用）を入手し、試合当日の健康チェックを行う。
- （イ）健康チェックシート（チーム用）を受付に提出する。
 - ※生徒引率顧問以外の役員は、健康チェックシート（役員用）を提出する。
- （ウ）各チームで手指消毒・うがい等を徹底する。
 - ※バスの乗車時や宿泊施設での消毒液等は各校で用意する。
- （エ）会場入場時は選手・指導者・スタッフは、原則、マスクを着用する。
- （オ）試合開始直前のマウスガードチェック時に手指消毒する。
- （カ）ボトル等を他の選手と共有しない。（ウォーター担当もラテックスグローブ等を着用する）
- （キ）セーフティーアシスタントはラテックスグローブ等を活用する。

3. コロナウイルス対応（保護者・応援・外部団体）について

- （ア）有観客とする。
- （イ）マスコミ・学校取材関係については本部受付後、ビブス着用を義務づける。
 - （岩手県以外のマスコミ関係者については、取材制限もあり得る）

4. 大会運営について

- （ア）運営役員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。なお、昼食時は特に細心の注意を払う。
- （イ）大会本部は密集を避ける工夫を施し、パソコンやアナウンスマイク等は使用者が代わる度に消毒する。
- （ウ）大会にドクター・救急救命士の常駐をお願いする。ケガ等で受診する際は、緊急時や試合中を除いてマスク着用、ジャージは着替えて、汗を拭き、手足などはアルコール消毒する。発熱患者は原則受診できない。発熱や体調不良など感染が疑われる人が出た場合は検温を行い、疑いがあるようであれば保健所の電話相談窓口に連絡して指示を受ける。当該チームで速やかに対応する。選手の場合は、保護者に連絡の上、保護者同伴で対応するように努めること。

- (エ) 審判員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。熱中症予防のため、審判員やA R 1、2、3にはマスク着用を義務づけない。また、使用したレシーバー等は消毒を徹底すること。
- (オ) 使用したボールやベンチ等の消毒を行う。
- (カ) 補助員生徒はマスクを着用すること。

5. 会場の使用について

- ・各校顧問は、事前に配布された健康チェックシート（チーム用）に選手・スタッフ全員の名前等を記載し、受付に提出する。
- ・生徒引率を伴わない教員、レフリー、ドクター等は健康チェックシート（役員用）を受付に提出する。
- ・協会関係者は健康チェックシート（役員用）を受付に提出する。
- ・報道関係者は健康チェックシート（役員用）を受付に提出する。また、ビブス着用を義務づける。（本部で受領）
- ・各校アルバム業者やチーム専属のカメラ担当者は2名まで入場を認める。入場時に健康チェックシート（役員用）に記入し、受付に提出する。また、ビブス着用を義務づける。（本部で受領）

6. 大会期間中に感染者等が確認された場合の対応について

- 大会開催期間中に関係者（選手、監督、役員、施設職員等）に感染者が確認された場合、高体連事務局及び競技会場を所管する保健所と連携し、大会開催・継続・中止については、関係機関と連携し当専門部が判断する。
- (1) 感染陽性者について 陽性者は大会参加不可。保健所及び医師から指示された健康観察期間（自宅待機）の解除後も、咳などの身体症状が残る場合は、大会参加を自粛するなど、学校で適切な対応をすること。
 - (2) PCR 検査や抗原検査が陰性であっても、保健所で指示された健康観察期間（自宅待機）は、大会に参加することができないもの。
 - (3) 参加について
 - ア 学校が休校措置になっている場合は、チーム及び個人（生徒）の大会参加を見送る。また、学年閉鎖、学級閉鎖になっている場合は、当該学年、学級に所属する生徒の大会参加を見送る。
 - イ チーム内で大会一週間前から前日までに部活動が起因する小規模クラスターが発生したチームは、大会参加を見送ること。
 - (4) 大会が中止となった場合
 - ・東北大会への県代表校は、令和4年度新人大会の結果を反映させ出場校を決定する。